



**KANSAI  
UNIVERSITY**

---

# 教職支援センター一年報

---

# 2015

関西大学 教育推進部  
教職支援センター

## 『教職支援センター年報 2015』 目次

### 投稿原稿

#### <小論文>

- ループブックを活用した初年次のレポート指導 関西大学文学部教授 安藤 輝次・・・ 1  
中学校社会科地理的分野における苦手意識の偏在状況と  
その改善に向けた提案 京都教育大学教授 香川 貴志・・・ 7

#### <報告>

- 「アクティブ・ラーニング」の実践からの教員の資質  
についての考察・報告 非常勤講師 尾崎 進・・・ 12  
今、教職を目指す人たちに伝えたいこと－「教職実践演習」  
の授業を中心に 非常勤講師 椎口 育郎・・・ 19  
報告 大学生のための国語教室－国語科教育法の課題 非常勤講師 桝井 英人・・・ 32

#### <教職支援センター特任教授からの報告>

- 教育実習に関する指導について ～国語を例として～ 特任教授 小野満由美・・・ 38  
「教職実践演習」についての一考察 その2  
－『課題別グループ研究及び報告会』－ 特任教授 北井 宏昌・・・ 44

### 1. 教員の養成の目標

- 関西大学教職支援センターの基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

### 2. 教員の養成に係る組織

- 教員の養成に係る組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48  
教職支援センター規程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

### 3. 教員の養成に係る授業科目

- 教職に関する専門教育科目および科目担任者一覧・・・・・・・・・・・・ 51

### 4. 教員免許状の取得の状況

- 各学部・大学院で取得できる教員免許状の種類・免許教科・・・・・・・・ 56  
介護等体験 参加者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58  
中学校・高等学校教育実習生数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59  
教員免許状取得状況・免許取得者数一覧（学部・大学院）・・・・・・ 60  
教員免許取得までの諸手続き・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67

### 5. 教員への就職の状況

- 教員採用試験合格者状況・合格者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68  
教員採用試験「大学推薦」の応募状況・合否結果・・・・・・・・・・・・ 71

### 6. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組

- 中期行動計画について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72

介護等体験事前指導について	73
2年次生対象「教育実習受講希望者ガイダンス」について	74
3年次生対象「教育実習ガイダンス」について	76
教員養成フォーラムについて	78
教員採用試験合格者との情報交換会について	80
教職専門科目担当者研究会について	82
教員採用試験合格者壮行会について	83
教員採用試験に向けて～支援制度を積極的に活用しよう～	84
教員採用試験 面接対策セミナー	86
教員採用試験 受験案内一覧	87
教員採用試験対策スケジュール	89
教職支援センター 利用状況	90
教職関係ガイダンス日程	92
教育実習出向指導校一覧	93
教職支援センターと初等教育学専修との連携について	96
教員養成のための豊能地区3市2町教育委員会との連携協力について	97
<b>7. その他</b>	
教員免許状更新講習一覧	98
教職支援センター年報 投稿規程・執筆要領	99
教職支援センター委員会委員名簿	101

## ルーブリックを活用した初年次のレポート指導

関西大学文学部初等教育学専修教授 安藤 輝次

### 1. 問題の所在

今日の大学では、教師の説明的授業だけでは、学生が受け身的な学びに終始して、表面的な理解しかもたらさないのが、学生が学習活動をして、内的な能動性も発揮できるような深い学習に繋がるアクティブ・ラーニングが必要であると言われる(溝上慎一、2013年、283頁；松下佳代、2015年、18-19頁)。どの程度まで学習したのかということ点数のようなテスト学力で測るのではなく、学習を浅いとか深いとか言うように、質的に捉えることが求められている。ミニッツペーパーのように教師の授業改善に役立てるだけでは駄目である(Nicol,2010,p.501)。そこでしばしば使われるのが評価規準の質的な差異を評価指標で示したルーブリックである。ここで注意したいのは、ルーブリックは、成績評価をするためだけに用いるのではないのであって、ルーブリックは、学生の学びの途上でも導入し、自らの学びの評価をさせて、出来不出来を明確化させ、次の学びに繋げるという学習促進という形成的役割も担っているということである。

しかし、ルーブリックを学生に単に提示するだけでは、学生はその意味内容を理解できないのであって、特に1回生はそうであると言われる(Hendry,2012,p.149)。ルーブリックは、評価指標によって教師の期待事項が明確になるという賛成論もあれば、ディーテールに欠けるという批判もあり、では、どうするのかと言うと、ルーブリックの特定のレベルを典型的に示す具体例を添えることが行われている(Bell et al.2013,p.771-775)。具体例をホームページに掲載してオンラインで学ばせる試みも行われているが、必ずしも明確な効果は確かめられていない。むしろ学生同士にピアを組織させて、ルーブリックをフィードバックさせたり、書面でのフィードバックを使うほうが効果的であるということが実証的に確かめられている(Nicol,2010;Evans,2013)。

このような問題意識に立って、学びの質的評価のためにルーブリックだけでなく具体例を添えたり、ピア評価をさせたりしながら、教師の評価と関連付けて、その教育効果を確かめる目的で「知へのパスポート」の授業を行った。その成果と課題を明らかにしたい。

### 2. 「知へのパスポート」の授業展開

現代の初等教育における諸問題を取上げた文学部1回生対象の授業「知へのパスポート」(2015年度春学期火曜日1限、2単位、受講生38名)の到達目標は、次の3つとした。

- (1) 今日の小学校や家庭・地域や子どもに関わる教育課題として何があるのかということを知っている。
- (2) それぞれの教育課題について、多面的に考察し、様々な対策を知っている。
- (3) 特定の教育課題について、その本質と対応策と残された問題を明らかにし、自らの言葉を使いながら、レポートにまとめ、説得力豊かに相手に伝える。

そして、成績評価は、定期試験は行わず、次のような割合で行うこととした。

平生点(40%)＋小テスト(10%)＋中間レポート(30%)＋最終レポート(20%)

授業展開については、シラバスでは、②から⑩までを学校の教科指導・生徒指導・その他の教育課題、家庭の教育課題、地域の教育課題とのみ記して割り振っていたが、第1回目(4/7)の授業で、「現代の教育課題」を受講生一人ひとりに書いてもらった後、小集団で取りまとめた結果、教育課題と選択した班の数は、次のようになった。いじめ(7)、保護者への対応や家庭との関係(6)、モンスターペアレント(4)、学力低下(4)、教師と子どもの関係(3)、体罰(2)、学校と地域との連携(2)、そして、学級崩壊、生徒指導、学級編成基準の多さ、携帯電話やテレビゲームはそれぞれ1つの班が選択した。

したがって、第2回目の授業(4/14)の冒頭において、上のような受講生のレディネスを踏まえて、次のような授業計画を示した。ただし、第8回目の授業⑧と第9回目の授業⑨については、この時点では「未定」として、その後の受講生の学びを見据えながら進めていったが、⑦までの授業は、分かりやすさとまとめやすさを考慮して統計資料を多用してきたからだろうか、学力をテストの点数のみで捉える傾向がみられたので、「学力とは何か」と「学校とは何か」という問題を資料配布して、受講生に検討させ、該当週の前の授業でどんなテーマを取り上げるのかを告知して進めた。

①	4/7	ガイダンス；現代の教育課題を自分の経験から考える
②	4/14	子どものいじめ
③	4/21	モンスターペアレント（前回までの学びの留意点を実物投影機で示す）
④	4/28	保護者の問題（同 上）
⑤	5/12	地域の問題（同 上）
⑥	5/19	子どもの学力低下（同 上）
⑦	5/26	児童虐待；これまでの学びで分かったこと
⑧	6/2	学校とは何か
⑨	6/9	学力とは何かー小学校に焦点化してー
⑩	6/16	中間レポート検討会：レポートのルーブリック発表；発表会の資料作成要領
⑪	6/23	中間レポートづくり相談会 → 6/25 レポート提出締め切り日
⑫	6/30	中間レポートの小集団発表会
⑬	7/7	優秀な中間レポートに学ぼう
⑭	7/14	最終レポートづくり相談会；小テスト
⑮	7/21	授業での学びを振り返って；最終レポートの提出；アンケートと小集団面談

このように「知へのパスポート」の授業は、②～⑦の授業を小学校に関わる教育課題を統計的に検討させた。ただし、⑦の授業で「これまでの学びで分かったこと」をシートに書かせたところ、統計資料に基づく思考や判断に偏っていたので、⑧と⑨の授業では、立場によって学力や学校に対する見方・考え方が違ってくることに気付かせた後、⑩と⑪の授業でこれまで配布した資料を使って中間レポートを纏めさせ、その修正版として自分で新たに見つけた資料を一つ加えて最終レポートを作成させるようにした。なお、両レポートともA4判2頁を本文、残り2頁に資料を掲載するとしたが、中間レポートは、A3判裏表に印刷して冊子化し、相互評価を介した自分のレポートの長短所の把握に生かした。

周知のように、受講生は、大学に入学したばかりであり、高校までにレポートを作成し

た経験もない者が大多数であった。そのことを踏まえつつ、しかも、「知へのパスポート」という授業科目の性格上、専修の基本的課題を全体的に取り上げる必要もあって、このような授業展開としたのである。

### 3. 授業において重視した教育方法

第一に、小集団による評価と学びを多用した。②から⑨の授業まで受講生が統計資料を個人で読んで、纏めた後、無作為に5~6人程度で編成した小集団で再検討して、班別に分かった事柄を書いたワークシートを提出させ、それらを実物投影機で投影して、赤青緑のマーカーペンを使って正誤を明らかにするという方法を採用した。ピアによる学習及び評価と教師のフィードバックを関連付けて、学びの質的向上を図ろうとしたのである。それに伴って③から⑥の授業では、次に示すような学びの確認をプリントにして配布したり、実物投影機で映し出して、注意を喚起した。

- ②4/14 : (a) 出典では、著者名、図書名 (『』) 又は論文名 (「」)、出版社名、出版年、頁の順に記す。  
 (b) 図や表に番号を記して、どれに関連して言及しているのかを明示する。
- ③4/21 : (c) 統計資料の場合、特定の図や表を読んで、割合等を記した後、増減をポイントで表して、導き出せる事柄を説明する。  
 (d) 複数の統計資料の場合、Aの資料から(c)のようにして分かった事柄を導き、Bの資料も同様の方法で分かった事柄を導いた後、AとBを割合で比較対照して結論づける。
- ④4/28 : (e) 複数の資料を掲載誌、考察した場合には、最後に「要するに」として纏めを記す。
- ⑤5/12 : (f) 資料は、自分の興味関心から選ぶのであってはならない。教育は、複合的に織りなされるので、できるだけ異なる資料を取上げて考察する。
- ⑥5/19 : (g) インターネットで出典を示す場合には、著者名や題名が分かれば、それを記した後、URLを書き、(〇〇年〇月〇日所在確認) と記す。

#### 文章表現のルーブリック (最終レポートの到達基準をDレベルとした)

	D	E	F	G	H
内容の構成	12. 読み手を見据えながら文章を綴っており、展開が分かりやすい。 13. 長い文章と短い文章を段落で使いながら、“興味深い”言葉を用いている。	17. 言葉や文章から読み手を意識していることが伺える。 18. 長い文章と短い文章を使い、段落の始め方も同じでない。	22. 所々何を言っているか分かりにくい言葉や文章がある。 23. 同じような文章や言葉使いが所々出てくる。	27. どちらかと言えば、自分の思いを描いているだけである。 28. 同じような文章や言葉使いが繰り返しあり、平凡である。	32. 自分の思いを勝手に描いているだけである。 33. 同じ文章や言葉使いが何度も出て来て、退屈である。
取り決めと出典	14. 誤字脱字がまったくない。 15. 適切な引用をしている、又は、ほぼ正確に出典を示している。 16. 内容にそって段落を設定していて、比較的読みやすい。	19. 誤字脱字がある。 20. 同じような引用が多い、又は、引用が2カ所を除いて正確に示している。 21. 段落が幾つかあるので、圧迫感がない。	24. 誤字脱字が複数ある。 25. 不必要なスペースを取った引用がある又は引用があまり正確ではない。 26. 段落がわずかにあるので、何とか読みやすい。	29. 誤字脱字が多数ある。 30. 引用がない、又は、出典を示していない。 31. 段落がまったくない。	34. 誤字脱字が多数ある。 35. 引用がなく、出典もまったく示していない。 36. 段落がまったくない。

第二に、文章表現と探究・分析のルーブリックを導入した。まず、上のようなレポートづくりの決まりを確認した後、⑩の授業で、次の“文章表現”のルーブリックを配布すると同時に、②から⑥の授業において班で提出したワークシートとルーブリックの評価指標

を関連付けて、どのレベルかと問いかけた。この文章表現のルーブリックは、昨年度以来繰り返し使って、修正加筆しており、ほぼ一般化できたものである。しかし、入学直後の1回生ということを考慮して、本来ならAレベルからあるが、レベルDからレベルHまでのみを受講生に示して、最終レポートまでにレベルDに到達するように求めた。

また、中間と最終の両方のレポートにおいて、自分なりにテーマを設定して探究・分析した結果を文章表現するので、全米大学・カレッジ協会（AAC&U）のVALUEルーブリックを参考にして(Rhodes,2010,p.23)、次のような“探究・分析”のルーブリックも受講生に示し、ホームページにおいて、②のいじめ、③のモンスターピアレント、⑦の子ども虐待に関する班の学びを纏めたプリントの一部を掲載し、どのレベルかを問いかけて、解答させる練習問題をさせたが、⑫の授業でネットにアクセスしている者が少ないことが分かったので、ネットを介した学びを促すために、⑭の授業において小テスト（4問）を実施した。

探究・分析のルーブリック（最終レポートまでに到達基準に達するように求めた）

	到達基準(Y26~A29)	優秀な基準(Z30~S34)
テーマの選択	Y26 テーマは、創造的で、しかも扱いやすく、おおよそ関係する点すべてを網羅している。	Z30 テーマは、これまで気づかれないほど創造的で、扱いやすく、関係する点すべてを網羅している。
根拠資料	Y27 テーマに関して異なった角度から取上げた資料を使っている。	Z31 テーマに関して異なった角度の資料だけでなく対比的な内容の資料も使っている。
分析	Y28 複数の資料から分かった事柄を文章記述だけでなく百分率やポイントで示し、類似点や相違点を明らかにしている。	Z32 複数の資料から分かった事柄を文章記述だけでなく百分率やポイントで示し、類似点や相違点を明らかにして、一定のパターンを抽出している。
結論	Y29 テーマに関係したほとんどの点について考察し、得られた結果をまとめている。	Z33 テーマに関係したすべての点について考察し、得られた結果をまとめており、その結果がテーマ以外の検討でも生かしていることを示唆している。

なお、文章表現と探究・分析のルーブリックの下に【コメント欄】を設けて、受講生の相互評価や教師評価でも記すことができるようにした。本稿の冒頭に述べたように、書面によるフィードバックの効果もあるのではないかと考えたからである。また、「レポートを見たことがないので、分からない」というので、過去の「知へのパスポート」で提出された受講生のレポート数編を⑩の授業で見せて、レポートに対するイメージ化を図った。

第三に、全員分の中間レポートを冊子化して、この時点では比較的優秀な5つのレポートに印を付けて、良い所を真似るように指示すると同時に、受講生一人ひとりの中間レポートについては、受講生同士の相互評価の結果と教師評価のルーブリック結果だけでなく、教師が朱書きをして、具体的な訂正や修正点を明示して返却し、⑫~⑭の授業を通してバージョンアップした最終レポートづくりに繋げようとした。

#### 4. 結果と考察

大学の授業評価アンケートを⑮の授業時に実施し、質問に「強くそう思う」と「そう思う」と回答した上位5つは、「教員は授業の開始・終了時刻を守ろうとしていた(96.9%)」「授業によく出席していた(93.8%)」「この授業を受けて知識が深まり、あるいは能力が高まった(90.8%)」「教室内の学習環境は保たれていた(87.8%)」「授業の進度は適切であった(87.7%)」であり、総じて高い学生評価を受けていた。しかし、本稿の目的にそって、その教育効果をデータに基づいて跡付けると、次のようになる。

2014年度春学期の2年次対象の授業「初等教育学専修ゼミ1」の授業については、中間レポートと最終レポートとの文章表現のルーブリック評価の増減によって、その効果を立証した(安藤輝次、2015年)。今回の「知へのパスポート」の授業についても、同様のこ

とが言えるように思う。

学生には文章表現の D レベルを到達基準と定め、それ以下のレベルをルーブリックにして示し、教師評価のルーブリックもコメントを添えて返却したが、実は、成績評価では、A レベルから H レベルまでをチェックして、成績評価を行った。その結果、中間レポートでは、受講者 35 名全員が D レベル以下であったが、最終レポートでは、C レベルの「内容の構成」のいずれかの指標（7. 文章は、読み手の立場から見て明瞭である。8. 長短の文章を段落で巧みに使い、“興味深い”言葉と文章を用いている。）が 8 名、「取り決めと出典」のいずれかの指標（9. 誤字脱字がまったくない。10. 適切な引用をしており、引用文献の書式がほとんど正確に示されている。11. 内容にそって段落を設定していて、読みやすい。）17 名となった。

しかし、探究・分析のルーブリックの授業効果を確認することは難しい。というのは、中間レポートを返却した⑫の授業時に【スキル編】として前述の(a)から(g)と同様の改善点を示し、【原則編】として、例えば、「いじめ」の原因として、コミュニケーション不足と言っても、その切り込み方が一面的であり、複数の資料を交えて論述していないことをプリントにして注意を促さざるを得なかった。また、⑬の授業の最後に前節に述べた授業方法に関連したアンケートを 5 件法（1「本当にそう思う」から 5 の「全然思わない」まで）で実施したところ、探究・分析のルーブリックの回答の平均値（標準偏差）について、「何が押え所かということが分かる」2.58(0.92)、「自分の学びの問題をうまく解決できる」2.85(0.89)、「評価指標は理解できた」2.42(0.99)と低いことが明らかになった。

実は、文章表現のルーブリックでも、「取り決めと出典の各レベルは理解できた」が 2.11(0.88)となったものの、「内容の構成の各レベルは理解できた」は 2.33(0.80)であり、顕著な結果とは言い難い。要するに、1 年次春学期の時点では、「レポートとは何か」ということが分かっていないのであり、論理的思考も十分展開できないので、探究・分析まで踏み込んだ論述を求めることは学びの連続帯から見て、高度すぎるということである。

この授業における最大の教育効果は、小集団学習に見出すことができよう。5 件法で「小集団の話し合いに影響されて、思うように発言できなかった」を尋ねた平均値（標準偏差）は、3.21 (1.12) であり、これは反転項目であるので、総じて小集団内で自由に発言できたとみなしてよい。「他人の考えと自分の考えを比べたり、組み込んだりして、どうすべきかを考えた」は 2.21(1.19)で、「小集団内の発表や批評は、より適格な問題に絞り込む際に役立った」も 2.24(0.92)と比較的高い。

大学の授業評価アンケート(自由記述式)でも「良かったところ、継続して欲しいところ」を記述した 19 名中最多の 9 名が「グループワークでいろいろな意見が聞けて参考になった」と回答しており、⑬の無作為抽出による 6 名の受講生に対する面談でも 4 名(男 1 名、女 3 名)が「グループワークが良かった」と発言していた。

受講生は、探究・分析のルーブリックについてあまり理解できず、活用できなかったかが、文章表現のルーブリックについては、小集団内で相互の学びを評価し合うという評価活動に関わって、評価に関する知見を体験的に身につけてきているのではないだろうか。

ところで、先行研究の紹介の中で文書フィードバックの効果に触れていたが、本実践では、それをルーブリックの下欄に【コメント欄】を設けて、学びの方向付けを記すことを



行った。そして、学期末の5件法のアンケート調査で「ルーブリックのコメント欄は、細かな点を指摘してもらえるので、あったほうがよい」の平均値（標準偏差）は、2.03(1.11)であり、69.7%が「本当にそう思う」又は「そう思う」と回答している。

また、中間レポートで評価してもらって、最終レポートをバージョンアップすることについて、アンケートでは尋ねなかったが、小集団面談において、「先生の評価にものすごいショックを受けて、でも次から頑張ろうと思えて、最終レポートも意欲的に取り組めた」とか「先生からも、特にあの形式的な面で書き方とかそういう面できちんと訂正とかもらったんで、それに対して何か安心という気持ちになりました」という声があり、別の受講生は、中間レポートを提出して「もう1回やり直すというのが良かった」と捉えている。これもフィードバック効果と言ってよいだろう。

他方、今後の改善点としては、文章表現のルーブリックで分かりにくい評価指標を尋ねたところ、評価指標の12を7名、17を5名が挙げており、読者を意識しながら、レポートを書くことが難しいことが分かるので、この点に対するより一層の指導を行う必要があるように思う。また、ホームページを活用してルーブリックの理解を図ろうとしたが、小テストを行ったにもかかわらず、1回も問題に取り組まなかった受講生が9名、1回または2回だけ取り組んだ受講生がそれぞれ8名であった。評価指標の典型的な学生のワークシートであったかどうかを含めて、ネット活用の在り方は、今後の大きな問題である。

#### 引用文献

安藤輝次「ルーブリックによる文章表現の評価学習法」『教職支援センター年報 2014年』

関西大学教育推進部教職支援センター、2015年。

溝上慎一「何をもってディープラーニングとなるのか？」河合塾編著『「深い」学びにつながるアクティブラーニング』東信堂、2013年。

松下佳代「ディープアクティブラーニングへの誘い」松下佳代編著『ディープアクティブラーニング』勁草書房、2015年。

Bell,A. et al(2013)Students' Perceptions of the Usefulness of Making Guides, Grade Descriptors and Annotated Exemplars, *Assessment and Evaluation in Higher Education*, 38 (7)

Evans,C.(2013)Making Sense of Assessment Feedback in Higher Education, *Review of Educational Research*, 83(1).

Hendry,G.D.(2012)Implementing Standards-Based Assessment Effectively, *Assessment and Evaluation in Higher Education*, 37(2)

Nicol,D.(2010)From Monologue to Dialogue, *Assessment and Evaluation in Higher Education*, 35(5)

Rhodes,T.L.(2010)*Assessing Outcomes and Improving Achievement : Tips and Tools for Using Rubrics*, Association of American Colleges and University.